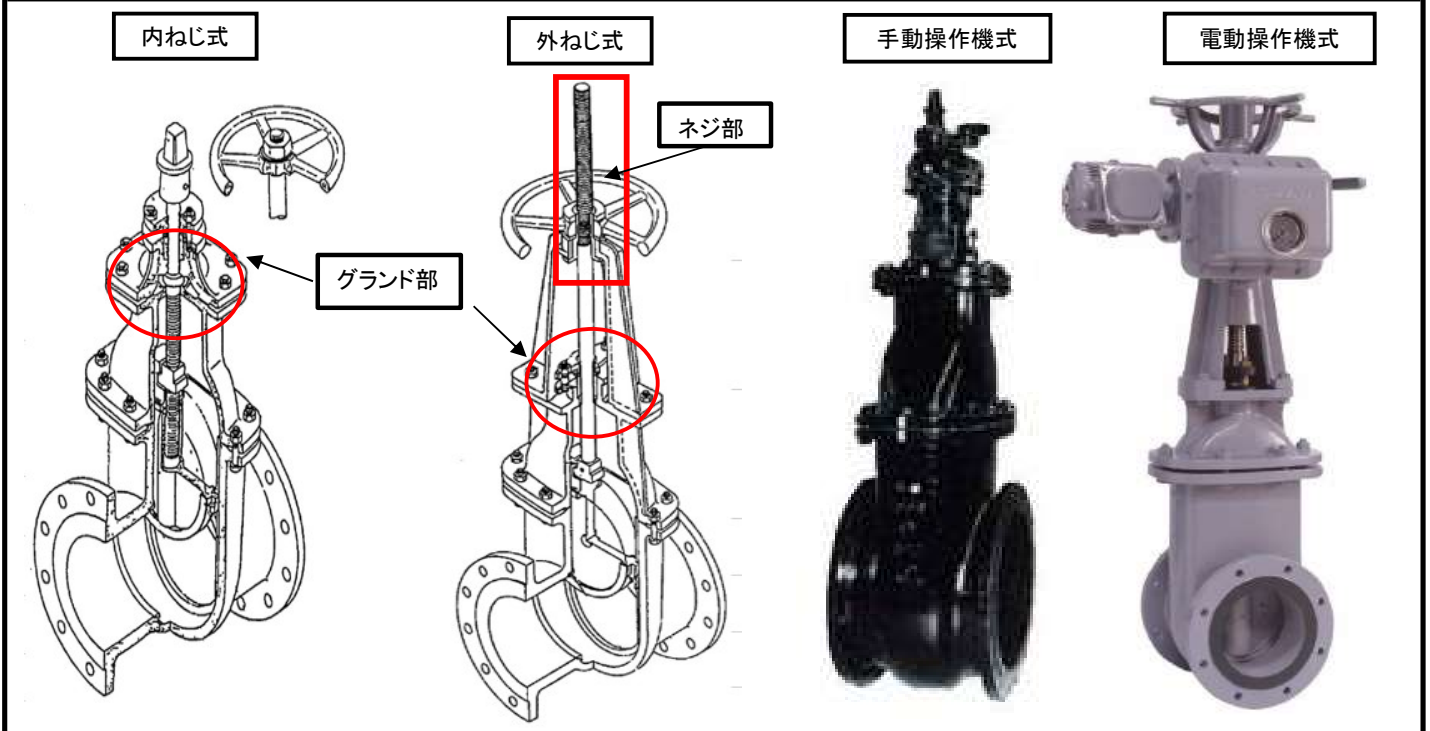


仕切弁 点検チェックシート【1/2】				初版
管理番号		点検日	年 月 日	
立会者		点検者		
設置場所(住所)		前回の点検日	年 月 日	
呼び径	φ mm	開閉方向 (キャップ式の場合) ※ハンドル式の開閉 方向は表示による	左回り開き・右回り開き	
面間寸法	L= mm		 左開きキャップ (ツバあり)	 右開きキャップ (ツバなし)
仕切弁の種類	手動: キャップ・ハンドル 電動・その他			
フランジ規格	7.5K・10K・16K・20K ボルト数:			
製造会社 (注1)				
製造年 (注2)		キャップ頂部の「S」マーク	有・無	
		弁開度	全開・全閉	
No.	点検項目	点検内容	点検結果	処置が必要な場合
1	使用状況	使用流体	浄水・他	
2	使用状況	設置状況	屋外・弁室・埋設	
3	使用状況	弁室の水没・堆積土砂	有・無	水没対策・土砂撤去
4	外観点検	外面塗装の剥離・錆・腐食の状態	A・B・C	B: 交換計画、C: 交換
		  		
5	外観点検	組立ボルトナットの腐食状態	A・B・C	B: 交換計画、C: 交換
		配管ボルトナットの腐食状態	A・B・C	B: 交換計画、C: 交換
		   ナット: 腐食無    ナット: 腐食中    ナット: 腐食大 ボルト: 腐食無    ボルト: 腐食中    ボルト: 腐食大		
<b>ボルトナットの状態が「C」の場合、破損事故が発生するため以下の点検を行わず、大至急仕切弁を交換してください。</b>				
6	外観点検	ボルトナットのゆるみ	有・無	増し締め
7	外観点検	部品の破損、脱落	有・無	修理
8	外観点検	フランジ部・その他接続部漏水	有・無	原因調査
9	外観点検	グランド部からの漏水 <sup>(注3)</sup>	有・無	増し締め
10	外観点検	弁棒ネジ部への異物付着 <sup>(注3)</sup>	有・無	清掃
11	機能点検	弁からの振動	有・無	原因調査
<b>点検の前に「点検前の注意事項」を確認して安全に注意して作業をおこなってください。</b>				
修理又は交換が必要な場合は製造業者に連絡をしてください。 注1) 製造会社はバルブの弁箱に鑄出表示されていますので水道用バルブ便覧の参考資料を参照してください。 注2) 製造年はバルブの弁箱に鑄出表示又はスタンプ表示されています。 注3) グランド部及び、ネジ部の詳細はP2をご参照ください。				

仕切弁の種類による点検について



No.	点検内容	点検結果	処置が必要な場合
1	キャップ軸の曲がり	有・無	製造会社へ連絡
2	開閉操作状況 (操作軽重、異音など)	良・否	製造会社へ連絡
3	開度計確認 (全開・全閉時の指示針位置)	良・否	製造会社へ連絡
4	グリース・油漏れ	有・無	製造会社へ連絡
5	ギヤケースの破損	有・無	製造会社へ連絡
6	開度計の汚れ	有・無	清掃

操作前に赤水防止対策など、検討・実施が必要です。

- ・水道用バルブ便覧の点検要領を参照してください。
- ・製造会社へ連絡する場合は、P11に記載の次の項目をご確認ください。  
(製造会社名,仕切弁の種類,呼び径, 呼び圧力, など)
- ・電動式の場合、製造会社で実施する点検整備には以下の等級がありますので、状況に応じた対応が必要になります。

電動操作機の点検整備の等級, 対象, 点検整備の内容及び点検整備場所

級	対象	点検整備内容	点検整備場所
A	運転開始より1年を経過したもの。使用者又はメーカー技術員が実施する。	主として外観, 操作回路絶縁を点検する。	現地でバルブに取付けたまま点検する。
B	運転開始より3~5年を経過したもの。メーカー技術員が実施する。	A級点検内容のほか, 制御機構及びギヤ類の点検整備をする。	現地でバルブに取付けたまま点検する。
C	運転開始より7~10年を経過したもの。メーカー技術員が実施する。	総分解点検整備をする。	バルブより取外し, 製作工場又は同程度の設備を有する工場。

※本点検整備内容は一般的な仕様条件を基本とします。(設置場所及び使用頻度により異なります。)

各等級の点検・整備内容の詳細は、水道用バルブ便覧の点検要領を参照してください。

## 点検前の注意事項

点検の前にこの注意事項をお読みのうえ、安全に作業を行ってください。

- 1) 点検時に弁室に入る場合は必ず酸素濃度を測定するとともに、有毒ガスに注意してください。 弁室内で点検作業を行う場合は換気に気を付けてください。
- 2) バルブの吊り上げ・玉掛けを行う場合は、質量を確認のうえで行い、吊り荷の下には入らないなど安全には十分注意して作業してください。
- 3) 作業を行う時は足場等の安全を確保し、不安定な管の上などでの作業は避けてください。
- 4) バルブの取り外しや分解作業、機能点検を行う際は管内、弁本体内に圧力が残っていないことを確認してください。 補修弁が設置されている弁（空気弁、消火栓）については補修弁を全閉とし、圧力を抜いてください。